

# 当院における腸間膜損傷 経皮的止血（血管塞栓）術の 治療成績（1996-）

大田原赤十字病院放射線科

荻安俊哉 水沼仁孝  
加藤弘毅 福田大記

# 目的

- 腸間膜損傷は本来、開腹術が第一選択
- 諸事情により血管塞栓術施行
- 1996年から10年間:7例
- review

# 検討項目

- 年齢、性別、合併損傷の有無、塞栓部位、塞栓物質、塞栓後の治療と予後
- 生死を分けた因子について検討

# 成績

## ■ 方法

- 全例金属コイルを使用（4～10個：平均6.4個）
- 塞栓部位
  - 回腸動脈 4例 回結腸動脈 2例 中結腸動脈 2例

## ■ 救命： 7例中4例

- 単独損傷に死亡例なし
- 死亡例は全例多発外傷(ISS18点以上)

## ■ 分布：31-85 平均年齢：62歳

# 症例

1996/8～

| 年月    | 症例  | 腸間膜損傷部位 | 合併損傷(ISS) | 塞栓理由・経過                   |
|-------|-----|---------|-----------|---------------------------|
| 96/08 | 31F | 回腸A.    |           | 適合輸血なし → 開腹術              |
| 01/12 | 51M | 中結腸A.   |           | 初療時手術適応なし→Hx              |
| 02/03 | 47M | 回腸A.    | ○(18以上)   | 開腹→肋間動脈塞栓                 |
| 04/10 | 72M | 回腸A.    |           | ワーファリン内服中 軽快退院            |
| 04/10 | 85M | 中結腸A.   |           | 2日後Hx→腸管壊死(-)             |
| 05/09 | 80F | 回腸A.    | ○(25)     | ワーファリン内服中<br>24hr後出血性ショック |
| 05/09 | 69M | 回結腸A.   | ○(18以上)   | 8hr後出血性ショック               |

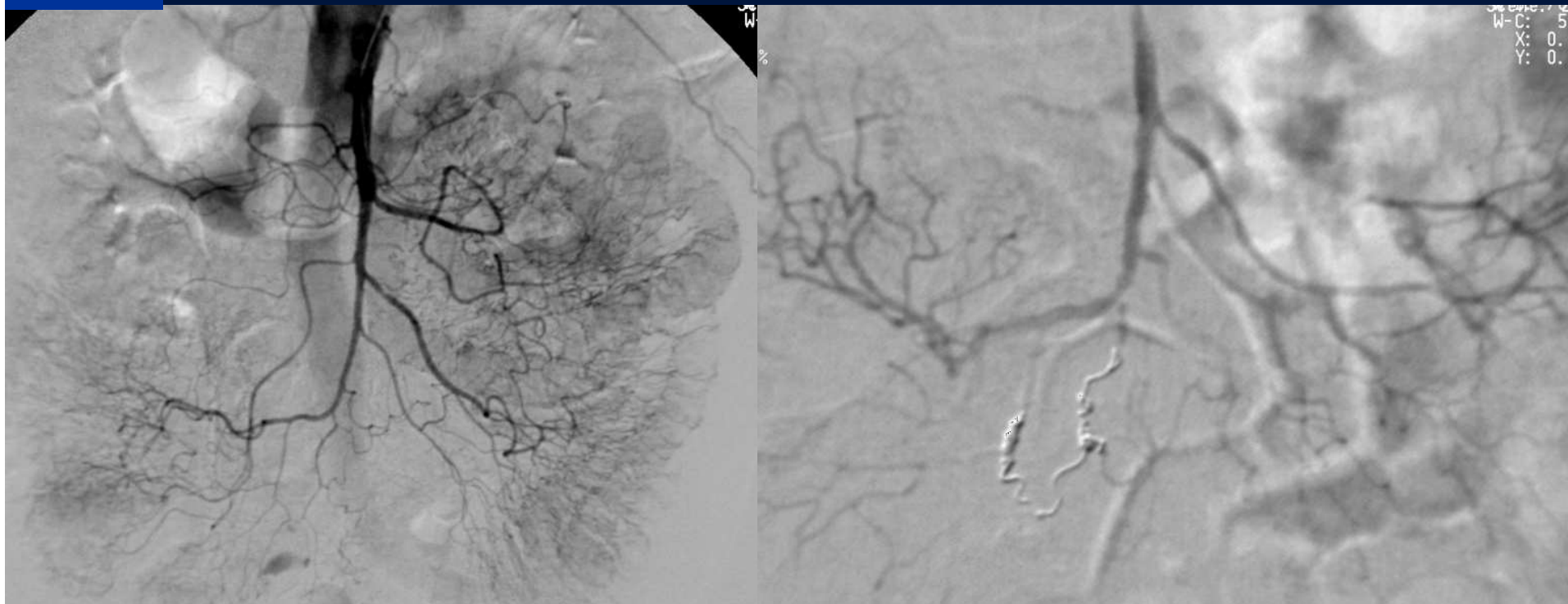
症例：70歳台男性 トラック運転中、乗用車と衝突。

動脈相

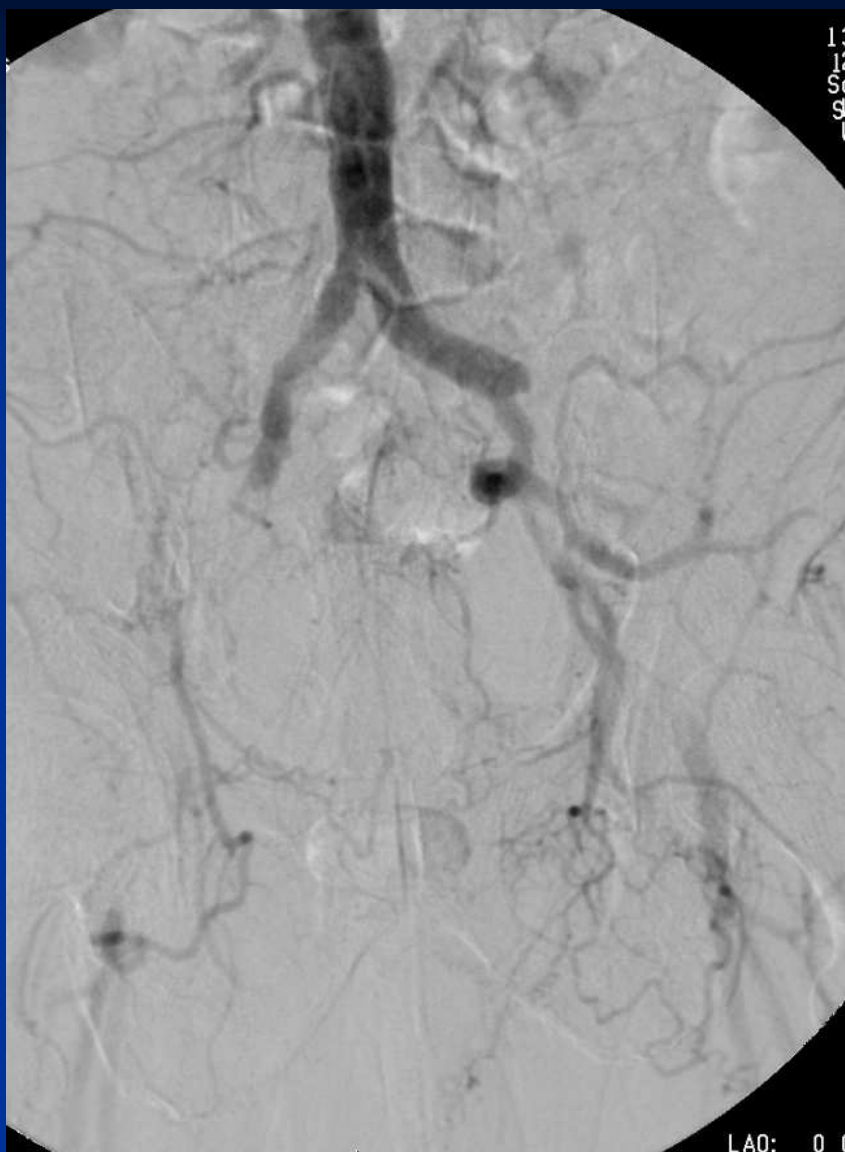


両側腸骨動脈閉塞あり、ワーファリン内服中  
→ 開腹せずTAEを選択

# TAE



左肘動脈より4Fr.カテーテルにて上腸間膜動脈を造影、回腸動脈及び回結腸動脈との吻合部に血管外漏出を確認。  
マイクロコイルにて塞栓、止血に成功



骨盤動脈造影では右総腸骨と左外腸骨動脈が完全閉塞

その後、腸管虚血や穿孔も認めず、21日後、退院

# まとめ

- 腸間膜損傷の治療法は外科的治療が主流
- 直ちに輸血/手術施行が困難な症例、抗凝固療法中症例に対しTAEが施行
  - 単独損傷は全例救命されており、有効



# 質疑応答

- 腸間膜損傷には腸管損傷を合併する事が多数あり、腸管損傷の有無を速やかに診断する診断能力が重要である。